

令和7年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	サクスクリエーション 合同会社	代表者	高橋 清彦	法人・ 事業所 の特徴	小規模多機能の他に居宅介護支援、地域密着型通所介護、訪問介護、障害者相談支援、有料老人ホーム、児童発達支援、放課後等デイサービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の事業所があり、令和8年4月からは訪問看護のサービスも開始。幼児からお年寄りまで様々な交流に向けて、多機能性ある柔軟な支援をし、利用者の生きる力を広げ生活そのものを支援し、地域との関わりを大切にする。また、施設併設のカフェやアリガト書店など地域の方々にも気軽に利用して頂けるスペースもあり、更に繋がりを広げる取り組みをしている。当事業所は家庭的で落ち着いた雰囲気の中で穏やかに楽しく過ごして頂けるような関りとケアを心がけており「共に明日を生きる」をキーワードに利用者のご自宅での生活を支援しています。地域との交流も積極的に言い、地域に開かれた施設を目指しています。
事業所名	サクス小規模多機能型 居宅介護やすらぎ	管理者	中島 佳太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の取り組み状況が外部の方にも分かりやすくなるように自己評価前の事前研修も年間研修計画に入れてお示ししたり、研修風景の写真も記録として残し、運営推進会議の場で報告する。</li> <li>事業所として地域に貢献できる事として、地域向けの認知症サポーター養成講座を計画する。</li> <li>認知症オレンジカフェにも地域の方々に参加いただけるように回覧板を活用して発信していく。</li> <li>本人を支えるための家族・介護者との関係づくりの配慮については事業所全体としてはできているので各々の役割を理解し、チームケアで支えているという認識を深めてもらうために事前研修でも説明していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所評価の年間スケジュールは立てたが、業務に追われ計画的に進める事が難しかった。研修風景の写真はとれなかったが、自己評価前の事前研修は新入職員のみ行った。</li> <li>地域向けの認知症サポーター養成講座は北部包括支援センターの方々の協力を頂きながら現在計画中です。</li> <li>地域の方々にも知って頂けるように認知症オレンジカフェ開催のお知らせはサクスのインスタグラムとチラシで発信されている。</li> <li>本人を支えるための家族・介護者との関係づくりの配慮については職員各々に役割があり、チームケアで支えているという認識を深めてから自己評価に取り組んでもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有の方法が工夫されている。変更になった場合の周知方法に気を付けて伝達もれを予防できると良い。</li> <li>課題が明確であり、しっかり取り組まれていると思います。</li> <li>職員間の情報共有の方法を工夫されていると感じました。</li> <li>様々な取り組みをする上でも情報共有は重要だと思います。</li> <li>サクスの事もまだよく分からない。無責任な評価はできないので今回は白紙で提出させて頂きたいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有については引き続きLINEワークスの掲示板を使ったり、朝礼やミーティング時に口頭で伝達していく。</li> <li>評価の理解を深めるために引き続き自己評価前の事前研修は年間の研修に位置付け、研修を実施する。</li> <li>個別評価から総括表までのフローチャートを作成し、運営推進会議の場で委員の皆様サービス評価の仕組みと当社の実践状況を報告し、取り組んでいる経過を具体的に知って頂く工夫をする。</li> </ul>

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内外の環境整備は役割分担して引き続き継続して行う。</li> <li>・基本的な感染予防対策も継続して行う（うがい手洗い）（換気・消毒）感染状況に応じて柔軟に対応していく。</li> <li>・施設内の出入り口の数と錠の状態を全体で把握して開錠・施錠担当が定時で確認を行う。利用者には今まで通り、できるだけ自由に生活して頂けるように安全にも配慮していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時の清掃、大掃除の時は掃除の場所を分担して行い施設内外の環境整備を実施した。</li> <li>・基本的な感染予防対策に加え、ノロウイルスなどに有効な次亜塩素酸での消毒も定時で（お茶・毎食時）実施した。</li> <li>・施設内の出入り口の数と錠の状態を全体で把握して開錠・施錠担当が定時で確認を行った。</li> <li>・利用者に今まで通り、できるだけ自由に生活して頂けるようにツマミが外れるタイプの錠に交換して安全を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉塞感なく居心地の良い施設環境だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内外の環境整備は役割分担して引き続き継続して行う。</li> <li>・基本的な感染予防対策も継続して行う（うがい手洗い）（換気・消毒）感染状況に応じて柔軟に対応していく。</li> <li>・これからも施設内でも安全かつ自由に生活して頂けるように定期的な施設内の環境整備を継続して行う。</li> <li>・利用者・職員お互いの負担軽減のために現在の設備環境でも活かせる福祉用具を積極的に取り入れていく。</li> </ul>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンクス主催、地域向けの行事の開催。（サンサン祭り・さいわいカフェマルシェ）</li> <li>認知症サポーター養成講座（地域向け）や認知症オレンジカフェにも地域の方々に参加して頂けるように計画していく。</li> <li>・引き続き地域行事にも積極的に参加していく。</li> </ul>	<p>10月に「サンサン祭り」も開催され、たくさんの地域住民の方が事業所を訪れた。今年度はボランティアの受け入れも活発になり（ハンドマッサージ・バレエ・ギター・健康体操）子供などの来訪も多くあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北部包括支援センターの方々の力を借りてオレンジカフェを開催する事ができた。地域向けの認知症サポーター養成講座は北部包括の方々にお願いして開催できるよう計画している。</li> <li>・地域の環境美化運動には可能な限り参加することができた。</li> </ul> <p>富田のふれあいサロンには利用者と一緒に毎回参加させて頂き、地域との関りが途切れないように取り組む事ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方とのつながりをつくるためサロンに参加したり、交流を意識的に行っている。</li> <li>・オレンジカフェ活用させて頂けてます。ありがとうございます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンクス主催、地域向けの行事の開催。（サンサン祭り・さいわいカフェマルシェ）</li> <li>認知症サポーター養成講座（地域向け）や認知症オレンジカフェにも地域の方々に参加して頂けるように回覧板などでも発信していく。</li> <li>・引き続き地域行事にも利用者と一緒に積極的に参加していく。</li> </ul>
<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の場で、軒下マップの様式の説明と事例を紹介する。</li> <li>・利用者との日常の会話や送迎時、ご家族などから知り得た新たな情</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人・ご家族との会話の中で知り得た情報もあったが、軒下マップの作成がおろそかになっている。</li> <li>作成のやり方や資料の保管場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が何に取り組んでいるのかを意外と地域の方は知らないなので周知活動は継続的に行っていくとよいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き事業所の活動状況を知ってもらうために活動内容と写真を年2回（春夏号・秋冬号）回覧板に掲載させてもらう。</li> <li>・本人のニーズに応じて地域との</li> </ul>

	<p>報を全体ミーティングの場で共有する、間接的とはなるが地域での暮らしの支援を知りその場で軒下マップにも記入しアセスメントに繋げていく。活用できそうな資源についての具体的な話し合いも行い、地域での暮らしをチーム全体で支えていく。</p>	<p>などを把握できていない職員もいて、発信・共有が不十分だった。情報を得たり関係性を築くために日常の会話を大事にして関わる事はできている。</p>		<p>関りが途切れないように地域のサロンへの参加や、自宅への外出などの支援を行っていく。</p>
E. 運営推進会議を活かした取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の心配な方についての対策を一度事業所で話し合い、運営推進会議の場で共有する。</li> <li>・議題については年間計画を立てて事前にお知らせしていく（再掲）</li> <li>・認知症サポーター養成講座は継続。包括・市担当者の方々と話し合っって計画的に進める。その中に地域に向けての認知症サポーター養成講座を計画、実行し、事業所と地域のかかわり（C）の項目に定着させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者以外の地域の心配な方についての話し合いの時間は設ける事ができなかった。登録利用者へのサービス実施や話し合い等、日々の業務で精一杯だった。</li> <li>・地域向けの認知症サポーター養成講座は北部包括支援センターの方々にお願いして開催できるよう計画している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部向けにやっている取り組みと外部向けにやっている取り組みを整理して報告して頂けると分かりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模の活動報告の項目に運営推進会議を活かした取り組みについての報告を追加し、ご意見・アドバイスを頂く時間も設ける。内部向け・外部向けにやっている取り組みを分けて、分かりやすく報告する。</li> <li>【内部向けの取組み】 会議で出た意見を改善につなげているか？運営に反映できているか？等</li> <li>【外部向けの取組み】 地域で心配の方の事例検討 地域の困りごとなどの話し合い等</li> </ul>
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問時のBCPができていないのでサクスホームヘルプステーションのBCPを参考にして作成する。</li> <li>・地域合同の防災訓練の計画と実施。<u>（7月と11月の運営推進会議に絡めて実施したいと考えています）</u>施設では気温や天候などを想定した訓練を計画する。（再掲）</li> <li>・日常的に「今日の役割」を決める。自然災害はいつ起こるか分からないので、管理者不在の時でも誰でも対応できるようにその日の役割を決める。（再掲）</li> <li>・3ヶ月に1回、防災会議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サクスホームヘルプステーションのBCPを参考にして訪問時のBCPを作成。</li> <li>・7月の運営推進会議ではメンバーの方々に避難訓練の様子を見学して頂き、防災についての話し合いを行った。</li> <li>・「今日の役割」・「3ヶ月に1回の防災会議」については計画的に実行する事ができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機会があれば防災訓練に参加させて頂きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月と11月の運営推進会議の日に合わせて避難訓練を計画して運営推進会議のメンバーの方々にも見学して頂き、感想・ご意見を頂ける時間を設ける。</li> <li>（再掲）</li> <li>・日常的に「今日の役割」を決める。自然災害はいつ起こるか分からないので、管理者不在の時でも誰でも対応できるようにその日の役割を決める。</li> <li>・3ヶ月に1回、防災会議を行う。（内容は施設内での担当者の役割やBCPの概要・必要性について</li> </ul>

	(内容は施設内での担当者の役割やBCPの概要・必要性について職員全体に周知、机上訓練でシミュレーションをする。)			職員全体に周知、机上訓練でシミュレーションをする。)
--	--	--	--	----------------------------

